

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 はっぴーはうす 保育所等訪問支援事業部門 えがお		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 10日		～ 2026年 1月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12	(回答数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	継続的・一貫した支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の支援記録を部門間で共有し、事業所内での様子と園・学校での様子を照らし合わせながら、支援内容を柔軟に対応している。</li> <li>保護者との面談や連絡を丁寧に行い、家庭・事業所・園(学校)が同じ目標を共有できるよう意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部門の枠組みを超えてのケース会議の質の向上を図り、情報共有だけでなく「支援の根拠」や「評価の視点」まで共有できる体制を強化する。</li> <li>職員研修を通して、チーム支援の在り方や多機能型の強みを再確認し、共通理解を深める。</li> </ul>
2	園・学校との丁寧な連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問前に事前情報を整理し、園・学校の方針やクラスの状況を踏まえたうえで支援に入るように心がけている。</li> <li>訪問後は記録やフィードバックを行い、支援の意図やねらいを共有することで継続的な実践につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連絡体制を明確化し、緊急時や課題発生時にも迅速に対応できる連携体制を構築する。</li> </ul>
3	保護者との連携・安心感の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問時の様子や小さな成長を具体的に伝えることで、子どもの「できている姿」を共有し、安心感につなげている。</li> <li>園・学校での様子や訪問支援の内容を適切に共有し、家庭・園(学校)・事業所が同じ方向で支援できるよう調整している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談しやすい雰囲気づくりを継続し、困りごとが大きくなる前に共有できる関係性を強化する。</li> <li>園・学校との連携状況を適切に共有し、保護者が安心して任せられる情報公開を心がける。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部門間連携に時間的余裕が十分に確保できない場合がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援を併設しているため、各事業の運営・記録・会議等の業務が重なりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携は支援の質の向上につながる重要業務であるという共通認識を職員間で再確認し、意識づけを強化する。</li> </ul>
2	園・学校との連携が担当者個人の力量に依存する部分があり、組織的な標準化が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問支援の経験年数や対人スキルの差により、助言内容や関係構築のしつにばらつきが生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問同行やロールプレイ研修を実施し、若手職員の育成と支援スキルの標準化を図る。</li> <li>訪問担当を固定化しすぎず、複数職員で関わる体制を整え、組織としての連携力を高める。</li> </ul>
3	訪問支援の専門性について、さらなる研修機会の充実が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の直接支援や記録業務を優先する中で、体系的な研修時間の確保が十分にできていない。</li> <li>訪問支援特有のスキルに特化した研修機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会を定期的開催し、実践と理論を結びつけながら専門性を高める。</li> <li>自己研鑽を支援するため、参考図書や資料の整備、学習時間の確保など環境整備を行う。</li> </ul>